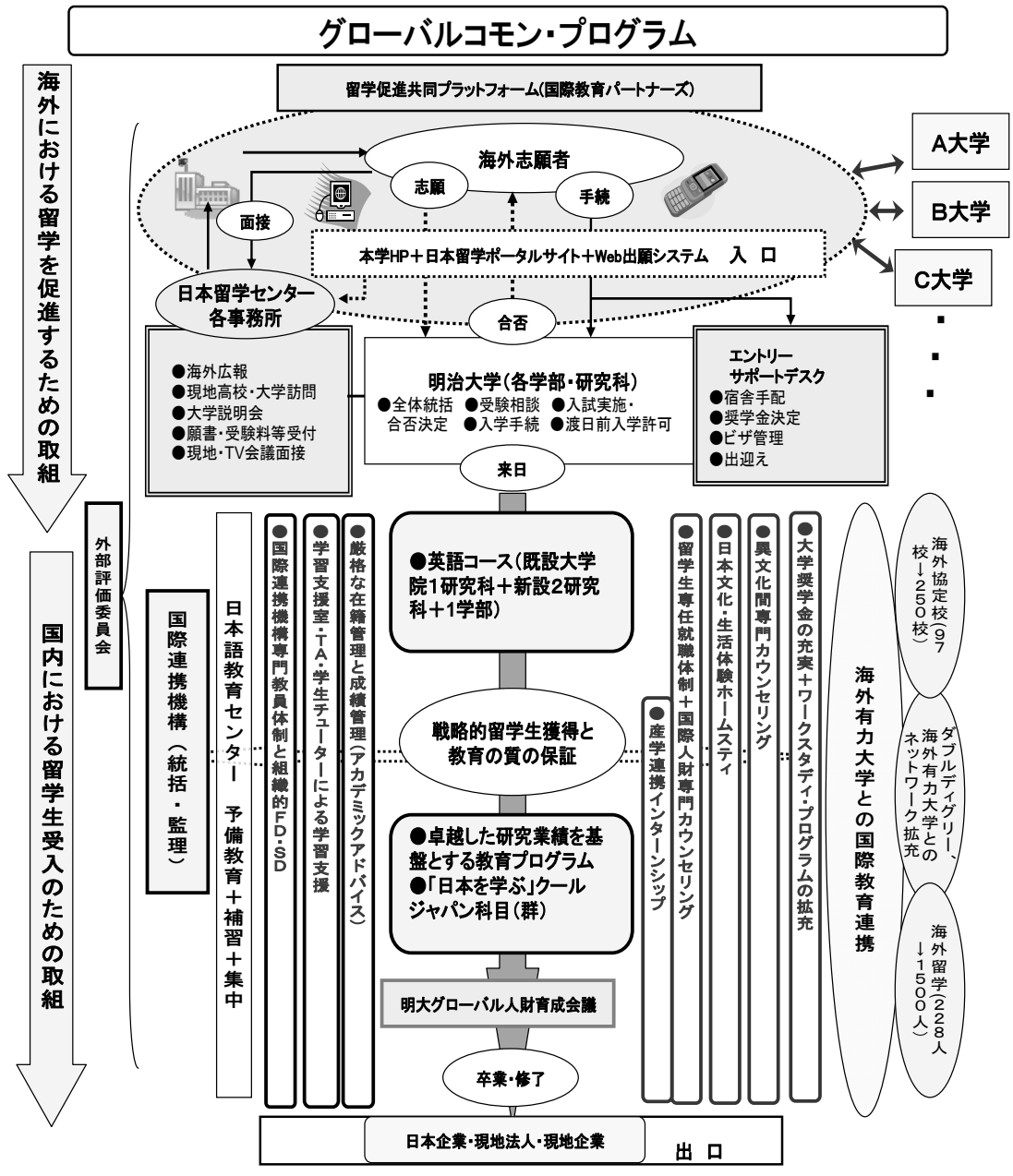
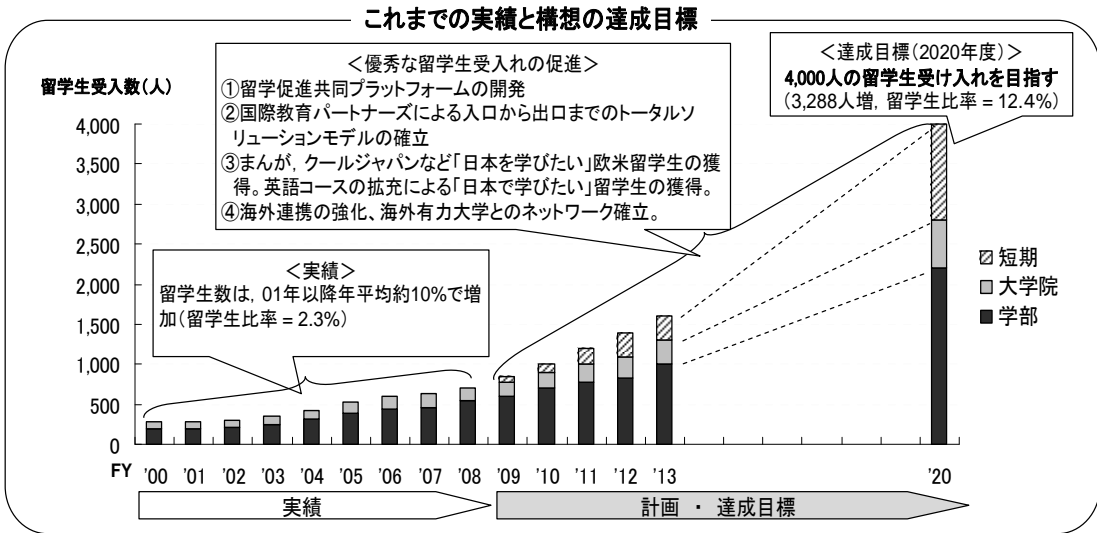


## 拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名	明 治 大 学
<p><b>[国際化拠点構想の概要]</b>            本構想は、戦前から有数の留学生受入れ大学であった本学が、一層の研究・教育の高度化を図り、世界の安定的発展を持続させるため、国際社会と共に生き、国際社会に貢献し、世界中の人々が本学に集う「知のグローバルコモン」を確立する。平成32年度までに4000人の留学生を受入れ、1500人の学生を世界に送り出す。本構想を「グローバルコモン・プログラム」と名付け、世界トップレベルの大学を目指す。</p> <p style="text-align: center;"><b>グローバルコモン・プログラム－国際化拠点構想－の概要</b></p>	
<b>1. 海外における留学を促進するための取組</b>	
<b>トータル・ソリューション・モデルの確立</b>	<p>明治大学は、(財)アジア学生文化協会(ABK)、(株)JTB法人東京、(株)ベネッセコーポレーションと<b>国際教育パートナーズ</b>を結成し、海外募集→入学→就職までの一貫した<b>トータル・ソリューション・モデル</b>を確立する。</p>
<b>海外大学共同利用事務所の設置</b>	<p><b>モスクワ(日本センターと連携)</b>での設置に加え、JTB海外支店網の活用により持続性・将来拡張性・共同利用性に優れた<b>海外拠点(日本留学センター)</b>を整備する(シドニー、ニューヨーク、パリ等)。これらの事務所では、ワンストップサービスを<b>日本の大学全体に提供</b>する。</p>
<b>留学促進共同プラットフォームの構築、渡日前入学許可の推進</b>	<p>ベネッセ、ABKとの連携で日本の多くの大学に汎用性のある<b>Web出願システム</b>を開発・公開し、<b>日本留学ポータルサイト</b>の充実や<b>海外拠点での面接</b>を実施し、<b>渡日前入学許可</b>を推進する。</p>
<b>エントリーサポートデスクの設置</b>	<p>渡日時の出迎え、入学時のビザ、宿舎、オリエンテーション、諸手続の支援を一括して専門に行う<b>エントリーサポートデスク</b>を設置する。</p>
<b>2. 国内における留学生受入れのための取組</b>	
<b>英語コースの拡充</b>	<p><b>大学院</b> ①GCOE先端数理科学インスティテュートPh.Dプログラム(既設)            ②経営学研究科英語コース(新設) ③ガバナンス研究科英語コース(新設)  <b>学部</b> 国際日本学部国際日本学科英語コース(新設)</p>
<b>質の保証、外国人教員比率の上昇</b>	<p>教材開発、FD推進、国際認証取得検討などで英語コースの質を保障する。<b>外国人教員比率を上昇させ(10%目標)</b>、外国で学位を取得した研究者の雇用も促進する。</p>
<b>多様な日本語レベルへの対応</b>	<p>日本語教育センターがABKとの連携のもとに、<b>日本語初級者から上級者、ビジネス日本語、学術日本語までカバーするカリキュラム</b>を構築する。</p>
<b>クールジャパン科目群の設置</b>	<p>「<b>日本を学ぶなら明治!</b>」をキャッチコピーとし、日本の文化・社会・技術等の豊富な蓄積と経験を「<b>クールジャパン科目群</b>」として<b>100科目設置</b>する。</p>
<b>全学生のモビリティを高める施策</b>	<p>大学院・学部での単位互換を拡充し、<b>大学間交流協定校を250校</b>に増やし、新たな<b>教育連携プログラム</b>や海外大学との<b>ダブルディグリープログラム</b>を開発して日本人学生を含む<b>全学生のモビリティを高める</b>。</p>
<b>教育の質保証を促進</b>	<p>国際的通用性のある<b>厳格なGPAやシラバスの詳細化</b>を実施し、留学生の<b>在籍管理システム</b>を構築し、<b>教員相互の授業チェック</b>などを実施して教育の質保証を促進する。</p>
<b>就職・キャリア支援の拡充</b>	<p>留学生専任就職支援担当者の配置、国際人材専門コンサル導入、校友会(OB組織)と連携した<b>明治大学グローバル人材育成会議</b>を新設、留学生インターンシップの拡充等により<b>徹底した就職支援</b>を実施する。</p>
<b>3. 大学の国際化、実施体制の強化</b>	
<b>国際連携機構の設置</b>	<p>学長を機構長とする全学的な<b>国際連携機構(国際連携本部・国際教育センター・日本語教育センター)</b>を設置し、各学部・大学院<b>国際交流委員会との連携</b>を強化し、全学体制で国際化を推進する。</p>
<b>運営体制の強化・外部評価体制の確立</b>	<p>国際連携の運営体制を強化・効率化する。外部の専門家を含む<b>評価体制</b>を確立し、国際連携の推進について<b>年度ごとに評価</b>する。</p>
<b>日本人教員及び職員の国際化とFD・SDの推進</b>	<p>制度の拡充により、<b>日本人教員の海外における教育・研究活動を促進</b>する。『留学生対応ハンドブック』や国際化研修プログラムを開発し、<b>レベル別に国際化FD・SDを実施</b>する。また、職員海外研修プログラムを拡充する。</p>
<b>学内情報の英語化</b>	<p>英語によるHPの充実、外国人教員のための学部便覧の英語化、<b>バイリンガル職員の採用</b>、全学生・教職員のための情報提供インターネット・システムである<b>Oh-o! Meijiの英語化</b>を実現する。</p>

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)



大 学 名	明治大学
-------	------

〔採択理由〕

明治大学における国際化拠点の整備のための構想は、学長のリーダーシップの下、産業界と連携したユニークな実施体制の構築や、英語による授業のみで学位が取得できるコースの教育内容・方法に工夫が見られるとともに、外部評価による点検・改善を行うなど評価体制の構築が計画されており、その実現性も高く、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

<特に優れた点、期待できる点、留意すべき点>

- ・民間企業と連携した「国際教育パートナーズ」による実施体制の構築は、産業界と連携した大学の国際化のユニークな取組であり、他大学の参考となる取組として評価できる。
- ・中国、韓国からの長期留学生への日本語の学習機会の提供のため、日本語教育や日本語サポートサービスの充実を図ることにより、母国語と日本語の語学的な能力の向上を図る取組は評価できる。
- ・留学生の受入の達成目標の実現のため、大学全体としての受入体制の改善・充実の方策の具体化が望まれる。